

富山教区同朋総会

ハンセン病問題と真宗

1996年に「らい予防法」が廃止されたとき、大谷派は「謝罪声明」を出しました。そしてハンセン病問題への取り組みとして、全教区の委員による「ハンセン病問題に関する懇談会」を組織し、療養所の入所者・退所者やその家族との交流を続けてきました。その中心事業が「全国交流集会」です。

富山県にはハンセン病療養所はありませんが、実際にハンセン病を患った方やその家族の方々がいます。そして強制隔離政策に加担してきた歴史があります。療養所が無いから関係ない、ということではなく、ハンセン病問題は「どんな問題」で「誰の問題」なのかを一緒に考えたい。そういう趣旨から、2019年9月には第11回目の全国交流集会を富山県にて開催することとなりました。

これに向けて、今年度の同朋総会でも改めてハンセン病問題と真宗について学びたいと思います。富山の真宗門徒一人ひとりがハンセン病問題を知り、自分の問題として関わっていくことが願われます。ぜひお誘い合わせのうえ、ご参加ください。

【日 時】 2018年12月17日(月)

【会 場】 富山東別院 本堂・東別院会館

【講 師】 さかい よしかず 酒井 義一 氏（本山ハンセン懇委員・東京教区存明寺住職）

※冊子『ハンセン病問題から考える』（酒井義一氏著・300円）を事前にお読みいただければ、さらに理解が深まります。ぜひ富山教務所でお求めください。

【対 象】 どなたでも

【参加費】 無料

【日 程】 13:30 開会
13:45 ビデオ上映（20～30分）
14:15 休憩
14:30 おはなし（60分）
15:30 休憩・部屋移動
15:45 班別座談
16:30 質疑応答・まとめのおはなし（30分）
17:00 閉会